



令和4年度施政方針

区政の持続可能な未来に向けて

3月2日に開催した令和4年第1回区議会定例会本会議で、坂本区長が令和4年度施政方針を説明しました。施政方針で示した予算編成・区政経営の方針、「3つの基本目標」に沿った主要事業の概要をお知らせします。

問合

政策企画課計画・SDGs係 ☎3579-2013



施政方針を説明する坂本区長

予算編成・区政経営の方針

日本経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による景気減速を背景に、令和2年5月の「景気の谷」を境とした緩やかな回復基調が継続しているものの、本格的な景気回復には至っていません。新たな変異株による感染拡大や物価上昇の懸念などによる経済の下振れリスクにも十分注視する必要があります。

このような中、予算編成方針では、財政状況の好転は見込めないと想定し、令和2年度から実施している緊急財政対策の方針を継続することにしましたが、景気の回復基調により、想定を超える歳入の増加となりました。

しかし、今後の不透明な景気動向などで楽観視できる状況ではなく、感染症対策・子ども家庭総合支援センター開設・まちづくり事業など、多額の経費負担の継続を踏まえると、将来を見据えた健全な財政基盤を確立する必要があります。

令和4年度は、感染症対策・生活支援・地域経済活性化対策などに迅速に取り組むとともに、2年目を迎える「いたばしNo.1 実現プラン2025」のステップアップを図ります。そのため、「SDGs(持続可能な開発目標)戦略」「デジタルトランスフォーメーション(DX)戦略」「ブランド戦略」の3つの重点戦略に、限られた経営資源を集中的に投入し、前例に捉われない創意工夫を重ねることで、行政サービスの質の向上をめざす予算編成としました。



令和4年度予算の主要事業(概要)

基本目標Ⅰ 「未来をはぐくむあたたまち」

子育て安心

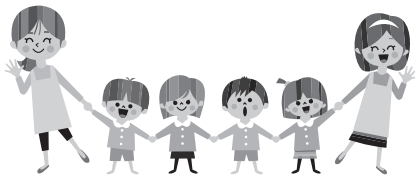
▶ 4月から、子ども家庭総合支援センターを開設します。7月からは、政令の指定を受けて、児童相談所業務を開始します。区民のみなさんに最も身近な基礎的自治体のメリットを最大限に活かし、次世代を担う子どもたちが心豊かに成長できる環境づくりに取り組みます。



子ども家庭総合支援センター

▶ 旧母子生活支援施設跡地への移転・改築を進めてきた弥生児童館は、弥生小あいキッズや集会所・防災備蓄倉庫と複合化し、省エネルギー建物認証「ZEB Ready」を受けた施設として、4月にリニューアルオープンします。

▶ 区立保育園に、保護者との連絡をデジタル化するシステムを導入し、情報共有の迅速化を図ります。また、保育士の事務作業時間の短縮化で園児との時間を増やし、保育の質の向上につなげます。



▶ いたばし子育てナビアプリに、オンライン相談や各種事業の予約機能を追加します。また、オンラインによる妊婦面接を開始し、妊娠期から切れ目のない子育て支援を行います。

魅力ある学び支援

▶ 上板橋二中は、改築工事が完了し、4月から新しい教育環境で学校運営を開始します。教科センター方式の採用やメディアセンターの設置など、学習環境の充実を図り、生徒の学力向上や学校運営における地域との連携・協働を進めます。

▶ 令和4年度～10年度に、学校施設の照明のLED化を進めます。4年度は、小学校14校・中学校6校で工事を行い、電気使用量・温室効果ガスの削減を図ります。

▶ 高島幼稚園で、3歳児保育や要支援児を含めた通年・長時間の預かり保育を行い、待機児童の解消や区内幼児教育のモデルとして検証を進めます。

▶ 区立図書館は、ICT(情報通信技術)化や生活様式の多様化に対応するため、電子書籍・音楽配信型サービスを導入します。区民のみなさんの利便性向上を図るとともに、障がいがある方や近くに図書館がない方などに利用機会を提供します。

安心の福祉・介護

▶ 「おとしよりなんでも相談」と高齢者・障がい者の「虐待相談」を24時間365日体制に拡充します。令和3年度に整備した「子どもなんでも相談」「児童虐待相談」と連携を図り、重層的な支援につなげます。



▶ ひきこもり対策の強化のため、関係機関との連携や具体的な施策を検討する担当組織を設置します。ひきこもりに関する調査を行い、対象者の実態・ニーズを把握し、支援体制を構築します。

▶ 東京都板橋ナーシングホーム跡地の活用で、小規模多機能型居宅介護事業所・認知症高齢者グループホーム・児童発達支援事業所などを整備し、だれもが安心して地域で暮らせる環境づくりを進めます。

2面に続きます